

熊本県立湧心館高等学校（定時制）平成27年度学校評価表

1 学校教育目標
(1) 確かな学力を育成し、個に応じた進路指導を行う (2) 豊かな情操と道徳心を培う (3) 心身の健康を自己管理する態度を養う

2 本年度の重点目標
【確かな学力・個に応じた進路指導】 (1) アクティブ・ラーニングを推進し、思考力、判断力、表現力を育む。 (2) 生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、きめ細やかな支援を行う。 (3) 望ましい勤労観・職業観を育成し、自己実現を図る態度を育む。 【豊かな情操と道徳心】 (1) 命を大切にする心を育み、自他の大切さを認める態度を養う。 (2) 規範意識を身につけ、善悪を判断し自らを律する力を培う。 (3) わが国の伝統と文化を尊重する態度とグローバルな視点を育む。 【心身の健康】 (1) 望ましい食習慣と生活習慣を身につけさせる。 (2) 運動に親しむ態度を育成し体力を向上させる。 (3) 健全な情報モラル教育を推進する。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の経営方針	本年度教育方針 // 教育目標 // 重点目標の達成	・全職員が重点目標を共有し各分掌で効果的に取り組む	・職員会議（連絡会等）での周知徹底のもと学年集会、前後期の生徒集会で生徒への周知を図る	B	・生徒の実態を踏まえて職員研修で目標の確認ができた。自尊感情の醸成とコミュニケーション能力の向上への取組が更に深まった。今後、生徒の行動が変容するまで粘り強く、取組を継続することが課題である。
	信頼され、開かれた学校づくり	保護者との連携	・振興会総会（4月）及び欠席者集会 ・教務関係保護者会（9月）への出席率向上 ・振興会活動の活性化 ・家庭訪問の実施	・各種案内及び通信を保護者の手元へ確実に届ける。 ・振興会総会の欠席者集会を2回実施する。 ・保護者に生徒の学校生活の現状を伝え、連携を強化する。	B	・家庭訪問、電話連絡等で家庭との連携を密に行うことが職員の共通の認識として定着した。また、SCやSSWとの連携で成果が上がった。 ・振興会総会（PTA）の出席率を高め欠席者の集会を2回実施した。トライアングル（新聞）の編集や湧定祭でのバザーで連携が深まった。
	信頼され、開かれた学校づくり	地域の信頼獲得 学校開放	・地域との連携連及び、地域行事への参加 ・学校周辺の清掃活動 ・校内外巡回指導の実施 ・施設開放	・地域行事への参加、学校周辺の清掃ボランティア、HR集会等での迷惑行為防止の啓発、校内外の巡回指導を行う。 ・地域の行事に施設を開放する（申請） ・クリスマス竹灯りで地域向けの事業に取り組む。	A	・18年目を迎えた地域との家庭科合同調理で異世代間交流と地域の伝統的食文化の継承に努めている。 ・太鼓部が施設慰問や地域行事への参加などで大いに地域貢献ができた。 ・湧定祭の企画、竹灯り及び紙灯籠作成には、近隣地域の「湧心苑」からは園児の皆さんが加わって更に充実した。今年度はクリスマス竹灯りの実施は見合わせた。 ・放課後、学校周辺の巡回指導を行い問題行動等の減少に努力している。

						・ 今後は生徒会を中心に月に一回程度の地域の清掃ボランティアを立ち上げたい。
	教職員の 資質向上	不祥事の防止	・ 不祥事ゼロ ・ 無事故無違反 ・ 安心安全な職場	・ 毎月、不祥事防止啓発資料集を連絡会で確認し、定期的に不祥事防止研修を実施する ・ 遵守項目等を周知徹底する。 ・ 不祥事を許さない固い決意を職員の雰囲気醸成に努める。	A	・ 不祥事防止については各事案ごとに全職員で職員研修に取り組んだ。不祥事防止啓発資料集を基に毎月第3水曜日に連絡会後の時間を確保して研修を深めた。 ・ 職員相互で何でも話ができる関係、雰囲気の醸成に努めている。
		学習指導力及び 生徒指導力の 向上	・ 公開授業週間における授業の自己点検と指導力向上 ・ 生徒理解研修等の実施 ・ 各種研修への参加	・ 合評会への積極的参加により授業の自己点検を行う。 ・ 公開授業週間を設定して、自己の指導を振り返ることで、学習指導力の向上を図る。 ・ 生徒理解を深め指導法を工夫しながら、個別できめ細やかな生徒指導を行う。 ・ 各自が長期休業を利用し各種研修に励み、復講する。	B	・ 公開授業週間の実施と授業研究などの継続した取組で授業改善に向かう機運を醸成している。 ・ 生徒の学力実態に応じた指導の在り方を探るため、職員の意識向上と、特別支援教育支援員との連携も含め、課題の共有が今後の課題である。 ・ 教育相談及び特別支援教育委員会が合同で隔月に生徒理解の報告会を実施した。生徒一人一人の特性等の情報を共有し生徒指導に生かしている。
学力向上	基礎学力 の向上	学力保障	・ 年間2回基礎学力診断テスト ・ 授業改善の共通理解 ・ アクティブラーニングによる参加型授業の形成 ・ 生徒の興味関心を喚起する業展開を工夫する。 (ITC, プリント及ノートの活用)	・ 基礎学力診断テストや考査で生徒のつまずきを分析し、効果的な指導方法を工夫する。 ・ 教科会、職員研修、公開授業を実施する。 ・ 生徒の授業に取り組む姿勢の向上を粘り強く指導する。 ・ 基礎学力向上に向けた教材研究を充実する。(学習プリントの工夫と作成)	C	・ 授業への主体的参加を目指して、聞く態度の育成を目指す。 ・ 基礎学力確認テストにより、生徒のつまずきを分析、把握し、長期休業中に基礎学力課外と進学課外を実施して成果を上げた。 ・ 公開授業週間(12月)を実施してアクティブラーニングを目指した授業に取り組んだ。相互の参観・見学によって自己点検につなげた。落ち着いた授業空間の形成ができた。 ・ 各教科会で授業改善についての議論を重ねている。課題等への教職員の意識は高まっている。 ・ 今後の指導法については、継続的に、更なる工夫が必要である。
		学習意欲の向上	・ 授業への主体的参加を促す ・ 検定試験の受験推進 ・ 資格取得	・ 生徒の興味関心を喚起する教材研究と教材作成。 ・ 苦手意識を解消する指導方法の工夫・改善。 ・ 資格取得を目標にした学習意欲の喚起及び指導の充実	C	・ 授業中の話を聞く態度が向上した。 ・ 生徒の学習意欲の向上に向けて、苦手意識の克服などで行動変容につなぐ取組が、成果を上げつつある。 ・ 資格取得を通じて短期の目標設定を行い、目標達成までの取組や努力の必要性を体得することで学習意欲を喚起させることができた。
キャリア教育 (進路指導)	キャリア 教育の推進	就労指導 勤労観・職業観 の育成	・ 就労率の向上を図る。 ・ 産業及び職業、就労について学び職業人としての生き方を考える	・ ハローワーク等との連携を更に強化して、在学時就労率を6割以上に高める。 ・ 生徒労働実態調査により、就労実態を把握し指導につなげる進路別ガイダンス、インターシップ、講師招聘の進路講演会やLHRでの進路学習会を実施する	B	・ インターンシップの実施やコミュニケーションスキルを高める学習を通して全学年に就労指導を行った。 ・ 就労率は、例年に準じ12月末で6割強である。入学以来一度も就労経験のない生徒もあり、個別的就労指導の強化が必要である。家庭や職場と連携し就労率の向上を目指す。 ・ LHRの充実や進路ガイダンス、夏季休業中の課外授業や個別の学習指導を実施し、キャリア教育を推進した。
		就職目標の実現	・ 就職内定率の向上 ・ 基礎学力・コミュニケーション	・ 就職試験対策(一般常識・模擬面接・個別指導)を実施し学校	B	・ 今年度も、学校紹介での就職希望者が少なく、今後の課題となった。内

			能力の向上 ・進路指導の充実・発展	紹介による内定数の向上を目指す。 ・学校求人票と共にWEB求人等の情報を提供する。 ・夏季休業中の職場訪問及就職フェア等の活用を促進する		定率向上対策として、基礎学力の定着、コミュニケーション能力向上の取組、欠席数を減らすなど、全職員での取組が継続されている。 ・求人におけるWEB求人等の比率が高まっている。進路室のPCで検索できるが生徒の利用がしやすいように環境を整えたい。
		進学目標の実現	・進学決定率の向上 ・基礎学力・コミュニケーション能力の向上 ・進路指導の充実・発展	・進学試験対策(過去問ドリル・模擬面接・小論文個別指導等)を実施し、学力の向上を目指す ・早期の三者・四者面談等で学費等の諸課題について保護者との理解、連携を深める。 ・進路希望に応じた情報を幅広く提供するとともに全職員で指導する。	B	・夏季休業中に課外授業を実施して、生徒一人一人の進路目標に応じた少人数指導で成果が上った。 ・8月までに三者・四者面談で保護者との連携を図った。 ・学費等の経済的問題での保護者との協議の中で就職進学への志望変更など、幅広い情報の収集と発信が今後の大きな課題となった。
生徒指導 (保健指導を含む)	基本的生活習慣の確立	自主・自立の精神の涵養	・高校生として自覚をもたせる ・自主的活動の推進 (生徒会活動やクラスの活動)	・生徒集会時の参加態度の指導 ・生徒会を中心に生徒が企画・運営する湧定祭を実施する。 ・生徒会各種委員会の活性化	B	・集会や講演等では、落ち着いた参加態度が見られた。しかし、整列指導には課題を残した。 ・生徒会行事の参加率も高まり、湧定祭等の行事も成功した。
		けじめのある生活	・校則やマナー、エチケットを守り当たり前の事が出来る生徒を育成する(挨拶・時間厳守)	・高校生・社会人として望ましい言動、挨拶、服装、言葉遣い等について、機会を捉えきめ細やかで丁寧な指導を根気よく継続する。	C	・職員の生徒への声かけが増えた。 ・コミュニケーションスキル向上の取組で相手を尊重する態度が生まれた。 ・挨拶など、場に応じた言動ができるようになった。
	環境教育の推進	環境教育の実践	・エコ活動の徹底 ・校内外のゴミのポイ捨て禁止 ・毎月「安全・衛生点検」を実施し環境整備に資する。	・ゴミ分別の徹底(可燃物・缶・廃プラスチック・ペットボトル・インクカートリッジ)節電(使用しない教室等の消灯)節水、紙の節約(プリント裏面の活用)等を実施する ・清掃ボランティア活動の推進	B	・ゴミ分別、節電等、意識が向上し、ペットボトルキャップ回収など、エコ活動に取り組む生徒の意識が向上した。 ・毎月「安全・衛生点検」では故障箇所等の発見、指摘がなされ、速やかに改善されて成果を上げた。 ・生徒会を中心に、清掃ボランティアの取組を地域に拡大していきたい。
	給食教育の推進	給食実施・指導	・毎日の給食を通し、食育の向上を図る ・食中毒の防止	・給食委員会・食育推進委員会による給食指導推進 ・安全で快適な給食環境づくり	A	・給食を食べる生徒が増加している。 ・マナーも改善され、残飯も減少した。 ・衛生管理は徹底されている。
	安全教育の推進	交通安全教育・指導	・交通事故防止 ・原付・バイク・自転車 ・自動車等の安全点検	・交通規則の遵守指導 交通講話の実施 ・校外交通指導、交通用具(二輪車及び自動車)安全点検二輪車実技指導の実施	C	・外部講師を招いて交通安全学習や用具点検等を実施した。 ・近年は、指導の成果として、交通マナー等も向上し、生徒の交通事故・違反が今年は1件のみであった。今後も引き続き、規範意識を醸成し、きめ細かな指導の継続が必要である。
		健康教育・指導	・健康の自己管理	・健康診断受診率を高め自らの健康状態への関心を高める。 ・教育相談、SC、SSW、特別支援教育支援員との連携強化を図る。 ・健康増進のための情報の提供に努める	B	・健康診断の実施形態を工夫することで受診率を高めた。しかし、その後の専門医受診率が低いことが課題である。 ・養護教諭(保健主事)を中心に、特別支援教育コーディネーター、教育相談係、SC、SSW、特別支援教育支援員との連携が円滑になり「心の健康」に関する保健指導で成果を上げた。 ・講師を招いて性教育・薬物乱用防止

						の講演を実施した。 ・生徒の行動変容には家庭状況、家庭教育力の向上などの課題が大きい。
人権教育の推進	人権教育の推進	職員及び生徒の人権意識の高揚	・職員研修及び人権学習の充実	・職員研修を充実させる。 ・人権意識高揚のためのHRや講演会等を実施する	A	・生徒が置かれている極めて多様な状況把握を取組の原点とし、担任や教育相談・特別支援委員会、生徒指導部、進路指導部等との連携を図りながら家庭訪問や職場訪問を行い、生徒が抱える個別の課題に対応できる体制の構築が緒に就いた。 ・人権教育推進委員会を定期的（隔月）に開いて、計画的に課題を探り、整理し、職員研修の内容やLHRの教材選定等に生かしたい。 ・校外の人権教育研修会に、全職員が参加できる体制を作ることができた。 ・人権問題全般の資料収集に努め、職員に提供し、共有することができた。 ・生徒の人権意識や部落問題の認識を高めるために、4年間を見通した人権教育LHRを実施した。
		進路保障	・適正な就職採用選考に向けた取組の推進	・「言わない、書かない、提出しない」などの趣旨についてHRや学年集会で徹底を図る。	B	・例年、卒業予定者に対して指導し、実践定着させている。生徒がその趣旨をよく理解し周知されている。 ・家庭訪問や職場訪問、出身中学校や地域などとの連携を通して、困難な条件をかかえる生徒の実態をつかみ、担任を始め、すべての教職員との連携を密にして取組を進めることができた。 ・ハローワーク主催の求人説明会では、定通制卒業予定者に対する求人確保のための取組を継続的に、定通制高校に求人を出す企業が現れるなど、一定の成果を上げることができた。 ・生徒同士がクラス集団として、また学年集団として人間的なつながりを作るよう、生徒の自主活動を保障する取組は今後も行っていく必要がある。 ・様々な困難を抱える生徒が多く、特別支援教育、教育相談、進路指導部との連携がますます重要になってくる。 ・在校生の勤務実態を把握して、就学を保障できるように、その改善に取り組むことが必要である。
いじめの防止	いじめの防止と根絶	早期発見 早期指導 継続指導	・「いじめ防止対策推進法」に基づく教職員の組織（いじめ対策委員会）を中心に、いじめ根絶に向けた取組の推進	・いじめ対策委員会が主導する職員会議、職員研修を通して情報交換による情報共有と共通理解を図り、現状認識の共有化に努め統一した指導に努める。 ・個々の事案においては情報・事実の正確な把握と確認に努め当該生徒の更正と相手生徒との関係改善を図る。 ・人権教育の推進と相まっていじ	B	・いじめ対策委員会を中心に、県の指針に基づいて「いじめ防止基本方針」を策定してホームページに掲載した。 ・日常的に「いじめは許さない」の指導を徹底した結果、第三者の目撃情報提供や勇気ある注意、声掛け等の行動が生まれた。 ・教育相談及び特別支援教育委員会の

				めを許さない心情と決意を示して、いじめを根絶する雰囲気づくりに努める。	2つを合同会として、隔月で定例化した。情報交換と状況把握に努めて「気づき」を大切にした。 ・いじめの発生を防ぎ、万一発生した場合の緊急対応を想定した手順を、三課程で定めた本校版「いじめが背景に疑われる重大事態への対応マニュアル」により確立した。
--	--	--	--	-------------------------------------	---

4 学校関係者評価

- ・学校関係者評価委員会では、生徒及び保護者、職員への学校評価アンケートについて、例えば「悩みや相談に親身になっている」の項目で生徒68.6%に対して、保護者92.3%、職員96.1%の肯定的な回答に温度差を感じる。教師側が今一步、生徒に歩み寄っての踏み込みが足りないのでは、とのご意見をいただき、今後の取組の指針と捉えて努力を続けて参りたい。保護者からは、「湧心館高校定時制に入学させてよかった」が96.2%、「健康・安全に関する教育が行き届いている」が89.7%と高い支持を得ている。生徒からは「定時制で学ぶことを誇りに思っている」が74.8%、「先生方の授業の教え方や説明がわかりやすい」が71.3%というように本校定時制教育の充実を示す結果としては、大方の生徒の支持を得ている。しかし、生徒一人一人の能力や到達目標の個人差も大きく、より多くの満足度を得るための取組に課題が残る。
- ・多様な状況の生徒が集まる定時制において、教職員が率先してコミュニケーションを図り行事等を工夫していることや生徒にとって居心地の良い学校づくりを目指して、日々努力している。更には、地域に根ざした、地域との交流を図る努力（地域住民との合同調理、湧定祭における竹灯り作成、湧心太鼓（太鼓部）の地域や県内のイベント等への参加、福祉施設等への慰問等）について、また、教職員が多くの職員研修を実施して、資質向上を目指していることに、一定の評価を頂いた。

5 総合評価

定時制に学ぶ生徒の課題は多種多様である。生徒を取り巻く経済的、社会的環境の厳しさ、キャリア教育の必要性と雇用関係の厳しさ、義務教育時代や前籍校での様々な理由による不登校経験、特別な支援が必要な生徒の存在等々を同時進行で改善、解決に向けて、職員一丸となって努力している。学校評価アンケート結果や分掌各部の自己評価から見ても、学校教育目標の達成に向けて着実に取組を進めていると総括できる。生徒の自己肯定感や自尊感情を高め、コミュニケーション能力をさらに高めようとする教育の成果は、生徒一人一人の学校生活に誇りと自信をもたらしつつある。各種の行事等への参加率が高まり、参加態度が格段に向上した。集会や講演会等において、その成果が顕著に見られている。特に生徒会主催の湧定祭での内容の充実と盛り上がりには目を見張るものがある。

6 次年度への課題・改善策

本校は開校以来、勤労高校生の学習と労働の両立を目指して、教育活動を展開してきた。現在は、社会の変遷、経済状況の変化、それらに伴う労働形態や雇用条件の変化等によって、生徒や保護者の本校に対するニーズが大きく様変わりしてきている。多様な生徒の教育のためには、社会自立（進路決定）に向けた学力の向上と適応指導の充実が不可欠である。具体的には、入学前の中学校からの移行支援シートの活用及び、入学後の個人の教育支援計画の作成のもとに、生徒理解を基本とする生徒指導力や授業力等の向上に取り組む。目標や指導方法に関する全職員の共通理解と組織的実践を重視して推進しなければならない。更には、アクティブラーニングを目指して「公開授業週間」を、更に充実させ、相互の参観・見学によって、自己点検に繋がる取組に繋げ、主体的に授業に取り組む姿勢を醸成し、落ち着いた授業空間の形成を目指したい。

また、地域住民との合同調理、太鼓部の地域貢献等では地域に信頼され開かれた学校づくりに努めていきたい。トライアングル（PTA新聞）の広報活動や振興会活動を通して保護者の本校に対する理解と協力を深め、本校教育の成果を高めて参りたい。

更に、本校は全日制・定時制・通信制の3課程併設校である。平成24年度から、県下で初のSSWモデル事業の指定に加えて、平成26年度からは「熊本県立高等学校における特別支援教育支援員配置」事業の指定を受けている。恵まれた機会と充実した施設・設備を生かして、定時制教育をますます充実させて参りたい。

